

「旅行用水彩画箱の自作(1)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

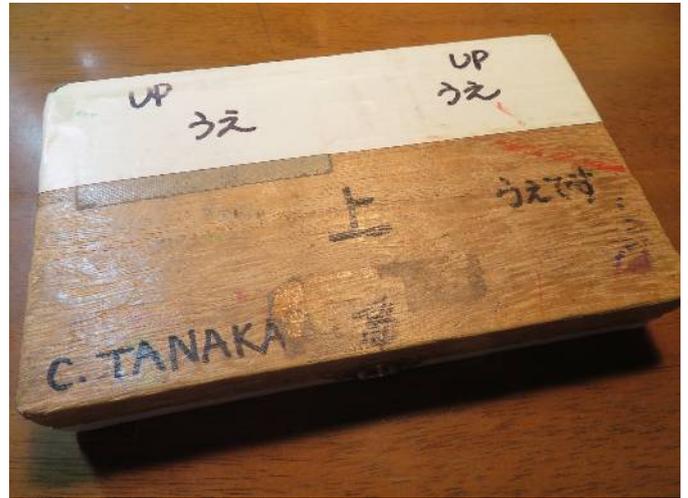
私は旅行時にはもちろん、普段も外出時は必ずかばんの中に水彩画の道具(画箱)が入っています。



これがつい最近まで使っていた、携帯用の水彩画の画材一式です。中には水彩絵の具 21 色、水筆ペン 2 種類、普通の墨の筆ペン、修正ペン、1.3mm のシャープペンシル、面相筆、ティッシュ等がコンパクトに収められていました。私の場合、水彩絵の具に「白」を使わないのが特徴です。「水筆ペン」は柄の部分に水が入っている「筆洗不要」の便利な絵筆で、30 年以上前に私自身が考案して商品化されたものです。今では世界中の各社が製造販売しています。



桐製の木箱も自作です。桐は軽いので、持ち運びに便利なのです。1995 年 12 月製作と書いてあるので、実に 30 年近く使っていたことになります。正確な数は不明ですが、千数以上は描いていると思います。



この画箱とは、さまざまな場所を旅行しました。ポルトガス、ギリシア、スウェーデンやノルウェーに多数、韓国に 2 回、中国に 4 回、それに国内旅行多数です。酷使連続で、水没や大破もしているので、箱は布テープの補修だらけで、まさに「満身創痍」でした。



それでも 5 月の石垣島・八重山列島旅行にも連れて行き、スケッチブック 2 冊分の水彩を描きました。



旅先では、立ったままの姿勢で、短時間で描かなければいけないこともしばしばです。上の画の竹富島でもそうでした。そんな、時この古い画箱ではかなり不便を感じました。帰宅後、新しい水彩画箱を自作することにしました。